

報道解禁 2024年6月17日(月)

<PRESS RELEASE>

2024年6月17日  
茨城県近代美術館運営支援協議会

## 茨城県近代美術館運営支援協議会が中村彝アトリエの環境整備のための 資金調達を目的としたクラウドファンディングを17日開始 -夭折の天才画家「中村 彝」REMEMBER プロジェクト-

茨城県近代美術館運営支援協議会(所在地:茨城県、代表:茨城県近代美術館館長 荒屋鋪 透、(以下「運営支援協議会」))は、水戸市に生まれ明治の終わりから大正期にかけて活躍し37歳で夭折した、近代日本を代表する洋画家「中村彝」の没後100年の節目にあたる今年、多くの方からの寄付で美術館開館時に新築復元した「彝アトリエ」のエリアを魅力ある場所にリニューアルし、来館者や美術ファン等の憩いの場として活用することを目指すプロジェクトを計画し、クラウドファンディングサービス「READYFOR」にてクラウドファンディングを開始します。

### 夭折の天才画家「中村 彝」REMEMBERプロジェクト

茨城県近代美術館運営支援協議会



支援総額

0円

目標金額 8,000,000円

0%

支援者 残り

0人 0日

最初の支援者になりませんか？

プロジェクトの支援にすすむ

♡0

<https://readyfor.jp/projects/...>

コピー

専用URLを使うと、あなたのシェアによってこのプロジェクトに何人訪れているかを確認できます

#### 【このクラウドファンディングが目指すもの】

中村彝没後100年となる今年、茨城県近代美術館では記念となる企画展「中村 彝展」を開催し、その作品を通して彝の芸術と「個性の時代」と呼ばれた大正期の洋画壇の諸相を検証、紹介する予定です。

クラウドファンディングによって、彝アトリエを陽の降り注ぐ明るい姿に取り戻すとともに、誰もが気軽に立ち寄れる公園のような開放的な空間にリニューアルすることを目指しています。さらに、周辺エリアをリニューアルした彝アトリエに足を運んでもらい、大正期を駆け抜けた若き洋画家の生き様を多くの人々に体感してもらうことも大きな目標です。

何より、クラウドファンディングを通じて中村彝のことを一人でも多くの人に知っていただくことこそが、このクラウドファンディングの最大の目的となっています。

#### 【クラウドファンディングプロジェクトの概要】

- ・プロジェクトタイトル:「夭折の天才画家『中村 彝』REMEMBER プロジェクト」
- ・募集期間:2024年6月17日(月)~8月9日(金) 54日間
- ・目標金額:800万円
- ・プロジェクト形式:All or Nothing 形式/購入型
- ・URL:[https://readyfor.jp/projects/NAKAMURA\\_Tsune](https://readyfor.jp/projects/NAKAMURA_Tsune)

・資金使途：「中村 彝アトリエ」エリアの植栽整備などによる公園のリニューアル	5,000 千円
近代美術館の情報発信を担う高校生特派員による「中村彝調査研究費」	500 千円
寄付者への返礼品	800 千円
READYFOR への手数料	1,500 千円
運営支援協議会の租税公課・その他	200 千円

・リターンの内容

※「返礼品なし」のコースも、寄付金額 5,000 円から 1,000,000 円で設定する

寄付金額	返 礼 品
5,000 円	●感謝のメール ●活動報告書(PDF形式でメールで送付) ●中村彝展招待券(2名)
10,000 円	●感謝のメール ●活動報告書(PDF形式でメールで送付) ●中村彝展招待券(2名) ●限定オリジナル彝 T シャツ
30,000 円	●感謝のメール ●活動報告書(PDF形式でメールで送付) ●年間パスポート(2名) ●中村彝展図録 ●限定オリジナル彝 T シャツ&彝トートバッグ
50,000 円	●感謝のメール ●活動報告書(PDF形式でメールで送付) ●年間パスポート(2名) ●限定オリジナル彝 T シャツ&彝トートバッグ ●中村彝展図録 ●彝アトリエ・エリア完成記念コンサートご招待(1名) ●銘板にお名前掲出
100,000 円	●感謝のメール ●活動報告書(PDF形式でメールで送付) ●年間パスポート(4名) ●限定オリジナル彝 T シャツ&彝トートバッグ ●中村彝展図録 ●彝アトリエ・エリア完成記念コンサートご招待(2名) ●銘板にお名前掲出 ●彝展オープニング・内覧会ご招待(2名)
300,000 円	●感謝のメール ●活動報告書(PDF形式でメールで送付) ●年間パスポート(8名) ●限定オリジナル彝 T シャツ&彝トートバッグ ●中村彝展図録 ●彝アトリエ・エリア完成記念コンサートご招待(4名) ●銘板にお名前掲出 彝展オープニング・内覧会ご招待(4名) ●館長によるプライベート鑑賞会&ディナーご招待(2名)
500,000 円	●感謝のメール ●活動報告書(PDF形式でメールで送付) ●年間パスポート(10名) ●中村彝展オリジナル T シャツ ●中村彝展図録 ●彝アトリエ・エリア完成記念コンサートご招待(4名) ●銘板にお名前掲出 ●彝展オープニング・内覧会ご招待(4名) ●館長によるプライベート鑑賞会&ディナーご招待(2名) ●彝展オープニングテープカットに指名(1名)

※ 返礼品のうち限定オリジナル彝 T シャツ・彝トートバッグはパートナー企業のアダストリアからの物品提供による支援

【クラウドファンディングとは】

インターネット上で支援金を募る仕組み。本プロジェクトでは All or Nothing 形式を採用し、目標金額に達成しなければ集まった支援金は全て返金となります(チランによる直接寄付は除きます)。支援者は支援額に応じたリターンを受け取ることができます。

【中村 彝について】

重要文化財《エロシエンコ氏の像》(東京国立近代美術館蔵)で知られる水戸出身の洋画家中村彝。早くに父母、兄姉を次々と亡くし、さらに肺結核により兄たちと同じ軍人の道を閉ざされた青年の失意を救ったのは洋画家となる新たな夢でした。22歳になった明治42年には国が主催する第3回文部省美術展覧会(文展)に初入選、画壇デビューを飾った彝は、第4回展、第5回展、と連続して三等賞を受賞。同44年には、多くの芸術家が集った新宿・中村屋裏の画室に移り住むなど充実した画家人生を歩み始めます。しかしその裏では、一進一退を繰り返す病魔との戦いがありました。



中村 彝(1924年撮影)



茨城県指定有形文化財

「カルピスの包み紙のある静物」(茨城県近代美術館蔵)

### 【中村 彝が残した足跡】

西洋美術への憧れを抱き続けた彝は、画集や美術雑誌に掲載された図版を通してレンブラント、ルノワール、セザンヌに触れ、その当時日本で公開され始めた実作品を病に冒された身体で見に出かけるなどしています。こうして彝は彼らの芸術を自らの芸術へと昇華させながら、死と隣り合わせだからこそ表現できる生命感あふれる作品を発表、「個性の時代」と謳われる大正期の洋画壇に大きな足跡を残しました。モデルの内面にまで迫った代表作《エロシエンコ氏の像》は、大正時代の油彩画としては、岸田劉生の《切通の写生》《麗子微笑》に次ぐ3件目の重要文化財に指定されるなど、彝の芸術に対する評価は早くから定まっていました。

### 【名作を生んだアトリエ】

《エロシエンコ氏の像》をはじめ《カルピスの包み紙のある静物》(茨城県近代美術館蔵)や《頭蓋骨を持てる自画像》(大原美術館蔵)など数々の名作が生み出された場所が、大正5年に完成し、最期を迎えることになる下落合のアトリエです。赤い屋根の瀟洒なアトリエは、自ら土地を求め、自身の財産で足りない分は支援を受けてまで建てたものでした。病魔で外出もままならない彝にとって、室内そのものが作品のモチーフとなるなど、アトリエは制作の拠点に留まらずに、作品誕生にとって重要な役割を担うインキュベーターのような空間であったといえます。

### 【中村 彝と歩んだ美術館】

茨城県近代美術館は、昭和22年開館の茨城県立美術館を前身としています。この県立美術館時代の昭和26年度には《自画像》を収蔵、28年度には30周年忌の遺作展を開催するなど、早くから中村彝の紹介に努めてきました。現在では彝のコレクションは29点を数え、全国の美術館では随一を誇っています。昭和63年、現在の地に開館した際には、彝の画業をより広く紹介できるよう、美術館に隣接する場所に彝アトリエを復元新築し、彝の作品にモチーフとしてたびたび描かれるソファや小卓、イーゼルなどの遺品を展示・公開しています。遺品を通じて制作過程が垣間見られると同時に、芸術誕生の空気感まで漂う彝アトリエは、その息づかいや人となりまで感じられる空間として多くの人に親しまれてきました。

### 【彝アトリエは昭和のクラウドファンディング】

実は、この彝アトリエの新築復元に、県費(税金)は使われていません。生前中村 彝と親交のあった人々が、彝の芸術を顕彰しようと没後間もなく作った「中村 彝会」(発足当初は『中村彝画室倶楽部』)が寄付を募って建築資金を集めそれを県に預けることで実現したもののなのです。その意味で当館は、昭和時代からクラウドファンディングに支えられていたとも言えます。

### 【現在の中村 彝アトリエ】

昭和63年の開館当初、彝アトリエは陽光が爽やかに注ぐ開かれた空間に建っていました。しかし35年が経過し、当時は小さかった木々は巨木となって彝アトリエを囲み、陽の差さなくなった芝生広場は苔むす薄暗い場所となってしまいました。往來から見えていたアトリエも木々の間に埋もれ、その存在を外から知ることができなくなっています。



復元当時



現在(左と同じ位置)



リニューアルイメージ

### 「中村 彝アトリエ」位置図



### 【「茨城県近代美術館運営支援協議会」とは】

幅広い分野で CSR やメセナ活動に取り込む有志企業 14 社と近代美術館がパートナーシップを結んで連携・協働を図り、館活動を通して茨城の芸術文化の振興を図る美術館支援システム「茨城県近代美術館企業パートナー制度」の活動主体。

※「運営支援協議会」に参加するパートナー企業・団体

(株)常陽銀行、関彰商事(株)、ザ・ヒロサワシティ、(株)アダストリア

近代美術館友の会、関東鉄道(株)、イオンモール(株)、茨城交通(株)

茨城県信用組合、茨城トヨタ(株)、茨城トヨペット(株)、学校法人リリー文化学園、沼尻産業(株)、水戸ヤクルト販売(株)

### 【本件の問い合わせ先】

茨城県近代美術館運営支援協議会 (茨城県近代美術館 内)

担当者名:事務局長 金澤、事務局 中島、田口、山口

電話番号:029—243—5111

E-mail :[crowdfunding@modernart.museum.ibk.ed.jp](mailto:crowdfunding@modernart.museum.ibk.ed.jp)